

シマフクロウの概要



1. 分類

- シマフクロウ(フクロウ目フクロウ科)
- 絶滅危惧 I A 類 (環境省レッドリスト 2012)

2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長 65～70 cm、翼開長 180 cm に達する日本最大のフクロウ。
- ・河川や湖沼周辺の森林（広葉樹自然林、針広混交林）に生息、広葉樹大木の樹洞に営巣。
- ・魚類を主食とするが、両生類、甲殻類、鳥類、小型ほ乳類等も捕食。

3. 分布状況

- ・国内では北海道及び北方領土に分布。北海道では、道東地域を中心に生息が確認。

4. 現在の生息個体数

- ・道内でおおよそ 140 羽程度と推定。
- ・そのうちのおおよそ半数が知床半島に分布。

5. 生息を脅かす要因

- ・森林から農地への土地利用転換に伴う生息可能地の減少。
- ・大規模森林伐採による営巣木の消失。
- ・河川改修や水質汚濁、漁業(遡上するサケ、マスの河口部での完全捕獲等)による餌資源の減少。
- ・生息地への人間(カメラマン、バードウオッチャー等)の入り込みによる繁殖への影響、漁網への拘束事故、交通事故及び感電事故等の人的要因の増加。

6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・昭和 59 年：環境省が冬期人工給餌、人工巣箱設置等の保護事業を開始。
- ・平成 5 年：国内希少野生動植物種に指定。同年保護増殖事業計画(農林水産省、環境省)策定。
- ・昭和 59 年以降、関係行政機関、関係者の連携・協力の下、給餌、巣箱の設置等による生息環境の整備を行うとともに、事故防止対策等が継続的に行われてきた。このような状況の下、維持あるいは微増の状態。(保護増殖事業計画策定時(平成 5 年)の生息数は 100 羽程度と推定)。

7. 他法令による保護の状況

- ・昭和 46 年：国の天然記念物に指定。
- ・昭和 57 年：本種の代表的な生息地である知床を「国指定鳥獣保護区」(44,053 ha、うち特別保護地区 23,630 ha)に指定。

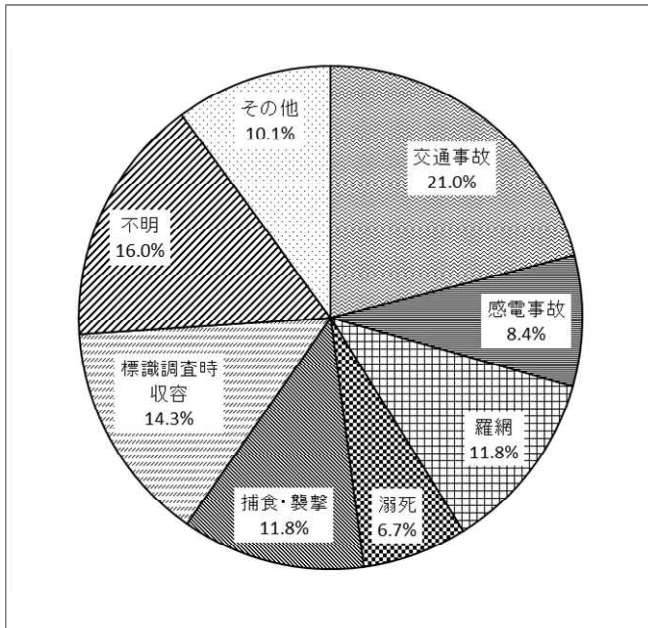


図 1 シマフクロウ収容要因別割合 (H6-26 年度)

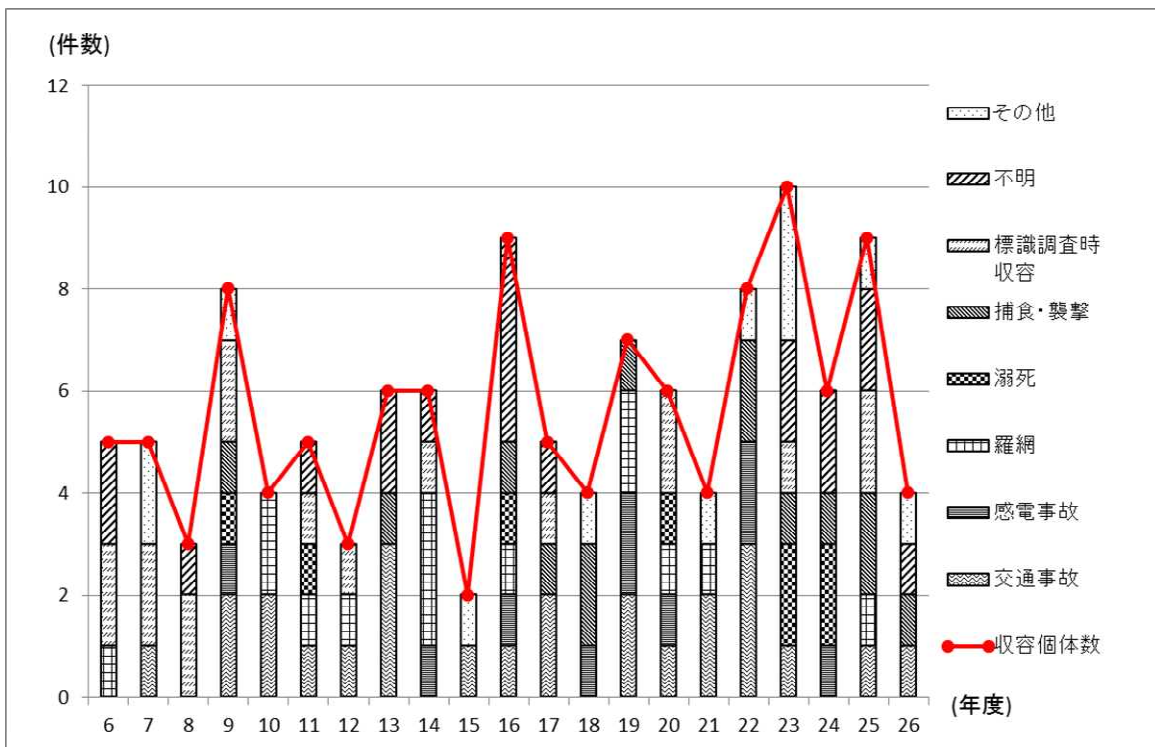


図 2 シマフクロウ年度別収容件数 (H6-26 年度)